



JSHCT Letter No.23

The Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation

有限責任中間法人日本造血細胞移植学会

July 2006

発刊発行:有限責任中間法人日本造血細胞移植学会 〒461-0047 名古屋市東区大幸南一丁目1番20号 名古屋大学大幸医療センター内 TEL&FAX (052) 719-1824
発行責任者:小寺 良尚(理事長) 編集責任:有限責任中間法人日本造血細胞移植学会編集委員会 http://www.jshct.com 発行:2006年7月

理事長二期目就任に当たってのご挨拶

理事長 小寺 良尚
(名古屋第一赤十字病院 輸血部、造血細胞移植センター)

盛夏、会員の皆様にはご清栄の段、大慶に存じ上げ奉ります。

去る2006年6月2日に開かれました有限責任中間法人日本造血細胞移植学会平成18年度第一回理事会におきまして、任意団体であった日本造血細胞移植学会時代に続き理事長を更に一期務めるよう仰せ付けられました。本学会には次の理事長にふさわしい優れた理事が多くいらっしゃると思いましたが、2年前理事長にご推挙いただいたときにお約束したことも未だ道半ばということもありまして僣越ではありますが再度お引き受けすることといたしました。

本年3月、皆様のご尽力により当学会は法人格を取得いたしました。造血細胞移植認定(専門)医・認定(専門)看護師・認定施設等を整備していく上で必須と思われる条件でしたので、法人化出来たことを先ずは共に喜びたいと思います。法人化の目的であった認定(専門)医制等を考えていただく担当理事も決まりましたので来る2年間にはその実現を目指したいと思います。

当学会の様々な活動の基盤とも言うべき全国データ集計事業は、今までそれと並行して行われていた小児血液学会による造血細胞移植小児領域データ集計事業、骨髄移植推進財団による非血縁者間骨髄移植データ集計事業、さい帯血バンクネットワークによる臍帯血移植データ集計事業と、症例登録用紙や登録方法を基本的には一つにすることにより一元化されました。又、その実務を担当するデータセンターも当学会が寄付者となり、データ集計・管理・活用を目

裏面につづく

第29回 日本造血細胞移植学会総会

会長:岡村 純(独立行政法人国立病院機構
九州がんセンター臨床研究部)

会期:2007年2月16日(金)・17日(土)

会場:福岡国際会議場

事務局連絡先:独立行政法人国立病院機構
九州がんセンター小児科

Tel:092-541-3231 Fax:092-542-8503

E-mail:jshct2007@congre.co.jp

学術集会HP:http://www.congre.co.jp/jshct2007
http://www.jshct.com/

◆ 演題登録受付期間

平成18年7月18日正午から

平成18年8月31日正午

※詳細は上記HPにてご案内申し上げます。

的とした造血細胞移植情報管理学講座が設立されたことにより充実しつつあります。他方、2000年4月に始められた末梢血幹細胞ドナーフォローアップ事業は、初期の5年間を終え、2005年4月からは骨髄ドナーも含めた血縁造血幹細胞ドナー事前登録・フォローアップ事業へと発展し、懸案の血縁ドナー(骨髄・末梢血)傷害保険もこの3月より利用可能となってから登録率は更に向上しています。来る2年間はこれら集計データをガイドライン委員会、臨床研究委員会等が中心になって利用し、わが国のエビデンスを作り、わが国発の新知見を作ってゆく時になるようにしたいと思います。

法人化に伴い学会事務局機能も充実してきました。従来業務委託をしていた会員情報管理、会費管理、ニューズレターの発行、ホームページの更新管理等の業務は全て専任学会事務局員が担当することになりました。今までともすれば会員の皆様にはご迷惑をかけることも少なからずありましたが、来る2年間はこれらをより正確に管理すると共に、特にニューズレターを季刊にして充実させ、会員相互の情報交換、学会のアピールに努めたいと思います。

先の学術総会で承認されました任意団体日本造血細胞移植推進機構は、従来の任意団体としての学会に育まれてきた自由な学会活動を担保しておくうえで重要です。来る2年間は嘱託弁護士、嘱託公認会計士の方たちと相談しつつ、この機構と法人学会とが車の両輪として機能し、会員の皆様に利益をもたらすよう努めたいと思います。

各種委員会も若いメンバーが加わるなど新しい時代を迎えています。来る2年間はそれぞれの委員会が今まで以上に多くの成果を産み出すことが出来るような環境を整えたいと思います。

2006年は健康保険薬価改訂年でありましたが、当学会が要望したドナー安全管理加算等は残念ながら採用されるに至りませんでした。これら当学会の要望は患者・ドナーの要望を反映したものであることにもう一度思いを致し、2008年度改訂に向け造血細胞移植に従事する会員の皆様、関連職層の努力が報われ、ひいては患者・ドナーの利益に繋がるようこの2年間努めたいと思います。

当学会と関連の深い日本血液学会・日本臨床血液学会、日本移植学会、日本輸血学会にも近年変化が見られます。又、IBMTR, EBMTとの情報交換も不可欠です。今年は又、アジア・太平洋BMT学会がわが国で開かれます。様々の機会を捉え、当学会の基盤を強化し、役割を明確にしてゆきたいと思います。

昨今の医学・医療を取り巻く環境は更に厳しく、造血細胞移植はともすれば特殊な分野として見なされかねない状況にあります。しかしながら我々が実践している医学・医療は、全年令層を天災の如く襲う疾病に対し高い確率で治癒と社会復帰をもたらすものであり、明日の細胞治療、再生医療を産み出すものであって、断じてマイナーではないことをアピールしつつ学会の更なる発展に微力を尽くしたいと考えております。

末尾になりましたが会員の皆様のご健勝を願い、理事長再任のご挨拶といたします。
どうぞ宜しくお願いいたします。

平成18年度社員総会承認事項等のお知らせ

本学会が、有限責任中間法人を設立したのに伴いその定款に従い平成18年度第1回有限責任中間法人日本造血細胞移植学会社員総会が開かれました。承認がされた事項につきお知らせいたします。

尚、役員については、第28回学術総会時の平成17年度学会総会(任意団体日本造血細胞移植学会)で承認決定がされておりますことを法人学会としての手続き上承認がされたものです。

又、各種委員会委員選任については、各種委員選出委員会において、まず、四委員会について公募がされました。他薦、自薦により応募された方は、理事会、社員総会において全委員として承認、決定がされました。その委員会も含めまして以下に全委員会の委員長、新委員、継続委員等をお知らせ致します。尚、委員会委員の公募は初めての取り組みでもありました。(公募は、ホームページ等で公示。)

(敬称略・50音順)

I. 平成18年度からの理事、監事、会長、次期会長は、全員承認をされました。

1. 新理事：荒木光子、今村雅寛、加藤俊一、小島勢二、坂巻 壽、藪田精昭、高上洋一、谷本光音、土田昌宏、中尾眞二
継続理事：浅野茂隆、岡村 純(会長)、岡本真一郎、加藤剛二、河 敬世、小寺良尚、澄川美智、中畑龍俊、森下剛久、森島泰雄
2. 新監事：高橋 聡、継続監事：金丸昭久
3. 次期会長：平岡 諦

II. 平成18年度からの新評議員、継続評議員は全員承認をされました。

人数の関係からご氏名につきましては、ホームページをご欄ください。

III. 平成18年度からの各種委員会委員長、委員として以下の方々为新任あるいは留任となりました。

1. 理事評議員選任委員会：新委員長(役職)：坂巻 壽(前会長)、新副委員長(役職)：岡村 純(現会長)
新委員：小島勢二、土田昌宏、中尾眞二、継続委員：笠井正晴、澄川美智(看護部会)、八木啓子
2. 臨床研究委員会：委員長(継続)：岡本真一郎、新委員：小川啓恭、谷口修一、土田昌宏、宮村耕一、継続委員：熱田由子、一戸辰夫、河野嘉文、神田善伸、坂巻 壽、原 純一、森慎一郎、山本一仁
3. ドナー委員会：委員長(継続)：小寺良尚、新委員：田野崎隆二、継続委員：浅野茂隆、池田康夫、加藤俊一、河 敬世、神田善伸、塩原信太郎、谷本光音、土肥博雄、中畑龍俊、原田実根、三田村 眞、森島泰雄、山本一仁
4. 編集委員会：委員長(継続)：小島勢二、新委員：池田和真(中四国)、岩戸康治(中四国)、小林直樹(北海道)、小林良二(北海道)、鈴木律朗(中部)、高見昭良(中部)、橋野 聡(北海道)、畑中一生(関西)、政氏伸夫(北海道)、継続委員：足立壮一(関西)、井関 徹(関東)、衛藤徹也(九州)、廣川 誠(東北)、山田真由美(看護部会)
5. 在り方委員会：委員長(継続)：河 敬世、継続委員(役職)：坂巻 壽(前会長)、岡村 純(現会長)
新委員(役職)：平岡 諦(次期会長)、継続委員：荒木光子、池田康夫、恵美宣彦、小島勢二、権藤久司、島崎千尋
6. 全国集計データ管理委員会：新委員長：加藤俊一、新委員：(内科)小林直樹、辻浩一郎、平岡 諦、(小児科)磯山恵一、河野嘉文、(その他)三田村真、継続委員：(小児科)加藤剛二、小池健一、(内科)権藤久司、田中淳司、吉田 喬、
※今後、全国データ登録一元管理に伴い委員会の発展的改組、改称が予定されております。
7. ガイドライン委員会：委員長(継続)：加藤剛二、新委員：池亀和博、恵美宣彦、豊嶋崇徳、星 順隆、室井一男、森慎一郎、矢部普正、継続委員：東 英一、岡村 純、坂巻 壽、矢野邦夫、オブザーバー：前川 平 ※前川 平委員は任期満了に伴いオブザーバーとして継続していただく事となりました。
8. 倫理委員会：委員長(継続)：谷本光音、副委員長(継続)：多田萬理子、継続委員：今村雅寛、北澤京子、長谷川ふき子、森島泰雄
9. 社保委員会：委員長(継続)：森下剛久、継続委員：生田孝一郎、池田康夫、笠井正晴、加藤俊一、岸 賢治、小寺良尚、近藤咲子、谷本光音、土肥博雄、中尾眞二、原田実根、宮脇修一
10. 看護部会：新委員長：澄川美智、副委員長(継続)：荒木光子、継続委員：粟井暁子、石井絹子、五十川美恵子、尾上裕子、近藤咲子、近藤美紀、沢 直美、平 ちひろ、高桑津賀子、高坂久美子、中西千代美、外崎明子、濱嶋なぎさ、森 令子、八島朋子、山田真由美、吉森文子

IV. 法人設立後の平成17年度法人学会決算(2006年3月9日～3月31日まで)ならびに法人学会予算(平成18年度)が承認されました。(学会ホームページ「会員専用ページ」に掲載をする予定でおります。)

V. 設立時((3月9日～3月31日まで)社員総会(設立時社員7名)議事録案の承認がされました。

(学会ホームページ「会員専用ページ」に掲載をする予定でおります。)

平成19年度評議員応募申請について

平成19年度本学会評議員の応募申請要項をお知らせいたします。なお、選任委員会の協議を経て、本年度総会の理事会・評議員会で承認され総会で決定されまると、平成19年4月1日より本学会の評議員となります。

■ 平成19年度有限責任中間法人日本造血細胞移植学会評議員応募申請要項

下記の事項について、本学会ホームページの会員専用ページ(URL <http://www.jshct.com/>)から様式をダウンロードし、平成18年9月16日(土)より平成18年10月31日(火)消印有効までに日本造血細胞移植学会評議員選任委員会宛て書留にて郵送してください。なお、原本の他に、原本のコピー9部を必ず同封してください。また、論文については別刷りを1部、学会発表についてはプログラムのコピーを1枚ずつ添付してください。要項に則しない申請書に関しては選考がおこなわれない可能性があります。

■ 選考基準

有限責任中間法人日本造血細胞移植学会・理事評議員選任委員会規則に基づいて、分野別に得点の上位者から選考されます。なお、当該年度の新規選出評議員数は理事会において決定されます。

(現在、理事評議員選任規約は改訂中ですので9月16日までにホームページ、JSHCTLetterにてお知らせ致します。)

1. 研究業績、医療業績、コメディカル貢献実績の3要素別に客観的に公平に選任する。
2. 専門性、地域性など学会運営上の必要性を考慮する。
3. 研究業績の客観的評価方法

①造血幹細胞移植に関する業績のみを対象とする。

②英文研究業績については、IFで算定する

first author: IF x 1

second author: IF x 0.5

senior author: IF x 0.5 (*研究責任者として1~2名が対象)

その他の著者: IF x 0.2

②「臨床血液」、「日本小児血液学会雑誌」、「日本血液学会雑誌(和文誌の時代)」などの和文学会誌に掲載された論文はIFを1点として上記と同様の算定方法とする。

③国内外の学会のうち、「日本造血細胞移植学会」、「日本血液学会」、「日本臨床血液学会」、「日本小児血液学会」、ASH(アメリカ血液学会)、ISEH(国際実験血液学会)、ISH(国際血液学会)、EBMT(ヨーロッパ造血幹細胞移植学会)における「特別講演」、「教育講演」、「シンポジウム」についてはIFを5点として計算する。

④IF100点以上は優先的に選ぶ。

⑤医系候補の場合、最低10点のIFを必要とする。

4. 医療業績

①移植報告数(学会への調査票報告数)を基準として、単一診療科で100例毎に1名とする。

②複数の施設・診療科での経験がある場合には、主治医として「日本造血細胞移植学会」、「日本小児血液学会」、「骨髓バンク」、「日本さい帯血バンクネットワーク」への移植調査票の報告数が50例あれば、単一診療科で100例に満たなくとも良いものとする。

5. 看護系、技術系、コーディネーターなどのコメディカルについては、施設全体の医療実績を基準として選び、コメディカル全体として移植報告100例あたり1名とし、勤務上の変更などの事情があれば、委員会で審査の上、同一施設内での評議員の交替を認めるものとする。

■ 記入上の注意

1. 専門分野・申請領域

臨床系医師・基礎系研究者の場合は必ず内科/小児科/輸血/その他臨床系(外科、泌尿器科など)/基礎系のどの分野で主に活動しているかが判るように記載して下さい。

医師以外の場合は、看護、検査、コーディネーター、など具体的に記載してください。

2. 氏名(ふりがな) ㊦

3. 生年月日(2007年4月1日現在の年齢)

4. 所属施設/診療科・教室/職名/施設住所/電話番号・FAX番号/e-mail

5. 学会(骨髄移植研究会を含む)入会年

5年以上正会員で会費完納が条件です。入会年、会費納入状況等がご不明の場合には事務局までお申し出下さい。連絡先：(052) 719-1824

6. 学歴/略歴(職歴、所属学会/団体(役職)、造血細胞移植との関連が判るように)

7. 発表業績(別紙に記載して下さい。)

I. 論文(別刷りを1部添付してください)

造血細胞移植に関する論文のみを記載してください。

【欧文業績と和文業績(「臨床血液」、「日本小児血液学会雑誌」、「日本血液学会雑誌(和文誌の時代)」などの学会雑誌のみ)を別々に、最近のものから順に番号を付けて、「著者名. 題名. 発表誌年; 号: 最初の頁-最後の頁. IF(インパクトファクター)・点数(算出方法は以下に記載)」の形式(著者を全員記載し申請者に下線を引くこと、及び、IFを付ける以外はBONE MARROW TRANSPLANTATIONに準じる)で記載して下さい。IFは最新(2002年度改定版: 2001 Science Edition Journal Rankings)のJournal Citation Reportsを用いて下さい。和文誌のIFは1.0として下さい。

* 点数の算出方法: 発表誌のIFに以下の点数をかけて下さい。

First author IFx1.0

Second author IFx0.5

Senior author IFx0.5(研究責任者1~2名が対象)

その他の著者 IFx0.2

II. 学会発表(プログラムのコピーを添付してください)

造血細胞移植に関する発表のみを記載してください。

【過去10年間の筆頭演者としての発表のうち、特別講演、教育講演、シンポジウムとしての発表を、最近のものから順に番号を付けて、演者(3名までに省略可)。演題名・発表形式(特別講演・教育講演・シンポジウムの別)。学会名。発表年、を記載して下さい。

8. 医療業績

①申請者の造血幹細胞移植経験数(主治医として日本造血細胞移植学会、骨髄バンク、日本さい帯血バンクネットワークに移植報告書を提出した症例数)

②現在所属している施設診療科における日本造血細胞移植学会、骨髄バンク、日本さい帯血バンクネットワークに移植報告書を提出した症例数

①と②を必ず併記して下さい。記載が無い場合は移植経験が無いものとみなします。

9. 研究業績(別紙に、造血細胞移植に関連のある事項を400字以内で記載して下さい。)

【送付先】	【問い合わせ先】
〒461-0047 名古屋市東区大幸南1-1-20 名古屋大学大幸医療センター内 有限責任中間法人日本造血細胞移植学会 評議員選任委員会宛	有限責任中間法人 日本造血細胞移植学会事務局 e-mail: jshct@med.nagoya-u.ac.jp TEL: (052) 719-1824 FAX: (052) 719-1824

施設紹介 名古屋大学医学部 造血細胞移植情報管理学(日本造血細胞移植学会)寄附講座

鈴木 律朗

本講座は2006年1月1日、日本造血細胞移植学会の寄附により名古屋大学に設置されました。これまでの学会からのニュースレターでもお知らせしてきましたように、3名の教官が配置され、その任にあたっています。講座の設立目的は、以下の4点です。

- 1) 日本における造血細胞移植全国調査を一元的に担当し、登録率の向上、情報の精度向上を図る。
- 2) 全国調査から得られた結果の公表および活用を本学会のデータ管理委員会、骨髄移植推進財団、日本さい帯血バンクネットワーク等との共同作業として行う。
- 3) 造血細胞移植医療に関する臨床試験等の支援を通して、わが国での移植医療の更なる向上を目指す。
- 4) アジア地域での造血細胞移植症例の登録を各国と共同で実施し、情報交換を円滑にすることによりアジア地域での造血細胞移植医療の向上に貢献する。



(寄附講座およびNPO、データセンターの仲間達です。)

第一の設立目的である造血細胞移植の全国調査に関しては、1993年の調査開始より12年が経過し、登録移植件数は30,000件を越えました。これまで数度の改訂を経て紙ベースでの調査が行われてきましたが、骨髄バンク・さい帯血バンクとの多重登録や施設にデータが残らないといったデメリットが生じてきました。これらを解決するため、本年度より一元管理プログラムを用いた電子登録が開始される運びとなりました。一元管理プログラムに関しては、同封の説明文書もご覧ください。この目的のためのデータセンターも講座内に併設しています。

第二・第三の設立目的である、データ利用の支援・臨床試験の支援に関しては、今後体制を整えて会員の皆様のお役に立てるように活動する予定です。これに関連して、本年より開始されたドナー保険の適格性判定に関する業務も、本講座のミッションの一つとなっています。

第四の国際協力に関しては、本年10月に名古屋で小寺理事長の下で開催されるアジア太平洋骨髄移植学会(APBMT)を通じて、これまで造血細胞移植登録システムを持たないアジア地区の移植医療に貢献する予定です。世界では先駆する存在であるIBMTRやEBMTとの協力・連携もふまえ、これまでわが国で立ち後れていた国際的協調に関しても役立てればと考えています。

本講座のある名古屋大学大幸キャンパスは、旧分院所在地にあたり、都会の喧騒からは少し離れた閑静な地区にあります。裏庭からは脇に存在するナゴヤドームの威容も望めますので、お近くにお越しの際はぜひ一度お立ち寄りください。

施設紹介

国立がんセンター中央病院

国立がんセンター中央病院 12B病棟
守屋 佳美

国立がんセンター中央病院は、がん対策の中核的施設として昭和37年(1962年)に設立されました。東京の台所：築地市場の目の前に位置し、銀座にも徒歩圏という好立地です。造血幹細胞移植病棟は、1999年



の新棟オープンと同時に開設されました。12階の西側にあり、東京タワーやレインボーブリッジを望むことができます。病棟の入り口は二重扉となっています。手洗いをして扉を入ると病棟内はHEPAフィルターが完備された空間になります。病室は、クラス10000の2床室2室、4床室2室、クラス5000の2床室1室、個室が6室、クラス100の個室が6室の計26床です。病棟フロア全体がクラス10000であるため患者さんは移植中もマスクを着用し、病棟内を歩いたり、廊下にあるエアロバイクを利用することができます。

造血幹細胞移植科の医師は4名ですが、そのほかにレジデントと他院から研修に来ている医師が数名おり、血液内科や小児科・精神科・緩和ケアチーム・歯科などの他科医師との合同で診療を行っています。看護スタッフは、師長1名、副師長3名、看護師21名、看護助手2名の計27名です(内、がん看護専門看護師1名、がん化学療法看護認定看護師1名を含む)。さらに、病棟担当の管理栄養士1名、薬剤師1名も継続的に関わっています。加えて、併設のアフェレーシス室と細胞調整室には専任の検査技師2名と移植コーディネーターがいます。この移植スタッフで、年間約100例の移植を行っています。(2005年は自家移植29例、同種造血幹細胞移植66例、うちミニ移植37例の計95例でした。)

移植医療においては各職種のスタッフがそれぞれの立場で患者さんと関わり、情報収集したことを共有し、よりよいケアを提供していく必要があります。私たちは、毎週1回定例の多職種カンファレンスを行い、また必要時には随時カンファレンス等で情報の共有化と方針の統一を図り、問題解決を目指しています。その際には、患者さんとも多職種とも関わる機会の多い看護師が調整を行い、中心となってカンファレンスの運営を行っています。

また、ミニ移植の増加に伴い、退院後の自宅療養を続けるなかで慢性GVHDと闘う患者さんが増えてきています。慢性GVHDは、退院後の患者さんのQOLを低下させます。加えて、経過の予測が困難であり、患者さんは先の見えない不安を抱えているため専門的な介入と精神面でのフォローが求められます。現在は、週1回病棟看護師が外来診療に同席し、移植前から移植後の外来患者さんへのオリエンテーションやケアのアドバイスを行っています。しかし、ニーズのあるすべての外来患者さんのフォローには到底及んでいないのが現状です。移植症例の蓄積とミニ移植の適応拡大、在院日数の短縮化により、今後は外来診療の果たす役割がさらに増すと考えられます。移植前の患者さんから慢性GVHDと闘う患者さんとケアギバーとなるご家族のフォローを含め、入院前から退院後まで、病棟から外来へ継続したケアをどのように提供していくかは今後の課題となっています。

病棟開設から7年が経過し、移植治療の方法が確立し、より安全性が高く患者さんのQOLを低下させない治療が求められるようになってきました。スタッフ間のコミュニケーションを大切によりよい医療が提供できるよう努力して行きたいと思っています。

New**若手会員を始めとする会員の声 欄にご投稿を**

編集委員会では、ニュースレターのこれからとして、若手会員の声を始めとする会員の声等をお寄せいただけるようなコーナーの新設について討議されました。実年齢は問いませんのでご自身で若手と思われる方は、ぜひ下記までご投稿ください。

投稿受付方法：郵便等による郵送のこと。

郵 送 先：日本造血細胞移植学会編集委員会宛（標題の住所）

* 字数：約600字（A4サイズで1/2頁）

（編集委員会）

平成18年度（2006年度）年間計画 / 現在事務局に届いております情報をお知らせいたします。

理事会

総会前日理事会

評議員会・社員総会

総会前日評議員会ならびに社員総会

各種委員会・ガイドライン委員会平成18年度の計画

本学会のガイドライン委員会は今年度より新規に7名の委員を迎え総勢12名となりました。この新たな体制で以下の4つのガイドライン、すなわち1. 予防接種のガイドライン、2. 血縁者骨髄ドナーのガイドライン、3. 移植適応のガイドライン、4. 細胞処理保存のガイドラインのそれぞれについてワーキンググループを形成して作成の準備中です。これらはいずれも造血幹細胞移植の臨床に必須な事項ばかりですが国内ではこれまでになかったため新規作成、もしくは初版の発行後数年を経て改訂の必要が生じたためにその作業を開始しています。これらの各ガイドラインの原案が作成された段階で会員の皆様の御意見をお聞きして修正の後に発刊したいと考えておりますので皆様の御協力をお願い申し上げます。

各種委員会・看護部会

- 1) 委員会（年3回）
 - 第1回平成18年 6月17日（土）於京都
 - 第2回平成18年10月21日（土）於盛岡市
 - 第3回平成18年12月16日（土）於東京都
- 2) 日本造血細胞移植学会学術集会 看護研究収録集発行
- 3) 造血細胞移植施設の国内研修の取り組み

事務局よりのお知らせ

●一般会員から正会員へ：

定款から、会員については、正会員と一般会員とに分けられております。正会員は医師及び一般会員となった後、満3年経過した者で正会員となることを希望するものを正会員とすると定められております。これは、主に専門医を認定することのできる学会であるための規定により定められたものです。今、一般会員の枠に入っておられます会員の方で、会員歴満3年を経過し正会員となることを希望される方は、皆様、どなたでも正会員になれます。後日、事務局からその条件を満たす一般会員の方に文書でもってお伺いいたしますので、希望される方は、ご意思の表示をお願いいたします。

尚、正会員と一般会員の違いは、評議員の応募の資格があるかどうかに限られております。
（本内容は、ホームページ「会員専用ページ」でも掲載する予定です。）

●会費納入：

平成18年度年会費払込票をお送りいたしましたので、ご納入をお願い致します。

●ご施設、居住先の変更ならびに休退会のお知らせは事務局まで：

ご施設、居住先の変更ならびに休退会のお知らせは、ホームページにごございます書式をご使用の上事務局までご連絡下さい。



2006年7月12日

JSHCT全国調査 移植情報提出をお願いします

1. 全国調査

日ごろは、日本造血細胞移植学会全国調査へのご協力をありがとうございます。本年度の全国調査から成人施設においては「移植登録一元管理プログラム」を用いた電子登録を行います。

2005年1月から12月に行われた自家および同種造血幹細胞移植(骨髄バンクを介したUR-BMTを除く)を「移植登録一元管理プログラム」に入力していただきまして、施設単位で移植情報の提出をお願いいたします。上記期間以前の症例で、JSHCTへ未登録であった症例に関しましては、登録を受け付けますのでご入力ください。

2006年度全国調査の移植情報提出期限は、2006年8月25日(金)です。提出は、「移植登録一元管理プログラム」の「データ書き出し」ボタンを用いて、匿名化・暗号化されたデータファイルを電子記憶媒体(CD-R、USBメモリーなど)に記録した上で、JSHCTデータセンター宛に郵送してください(USBメモリーは後でお返しします)。全国調査報告書の施設内移植件数と数えるためには入力必須項目が全て入力されている必要があります。

JSHCTホームページ(<http://www.jshct.com/>)の「会員のページ」に「移植登録一元管理プログラム」をダウンロードできるページがあり、ダウンロード・インストール方法の説明、プログラム使用マニュアル、Q & Aなどもあります。プログラムは適宜バージョンアップされています。バージョンアップの際には、その都度施設の「連絡責任医師」あてに電子メールでJSHCTデータセンターから連絡しています。最新バージョン情報は常にHPで確認が可能です。

2. 注意事項

- ◆ 一登録診療科内では一つのプログラムで運用してください。「移植登録一元管理プログラム」では、登録施設診療科名を認識し、施設コードを用いた匿名化(一元管理番号の付与)を行っています。同じ診療科内で、複数のプログラムを用いて運用される場合、匿名化番号が重複してしまいます。
- ◆ 情報漏えい防止のため、インターネットに接続されていないコンピューターで入力をお願いします。
- ◆ 登録の際には、プログラムの「データ書き出し」ボタンを用いて提出ファイルを作成してください。その際コンピューター上に提出ファイルが保存されます。プログラムにより自動的にファイル名が付与されますが、ファイル名は変更しないでください。
- ◆ 患者情報の安全性を重視し、登録データセットの提出は、CD-R等の記憶媒体に記録した上で、JSHCTデータセンターに郵送してください。メールへの添付は、情報漏えい防止のためご遠慮ください。
- ◆ 施設におけるセキュリティーの設定から、ダウンロードが簡単に出来ないご施設もあるかと思えます。そのような場合には、プログラムを焼いたCD-RをJSHCTデータセンターよりお送りいたします。JSHCTデータセンターにご連絡ください。
- ◆ 今月のバージョンアップ(Version 1.1)に新しくバックアップ・リストア(復元)機能が追加されます。入力された患者情報の定期的なバックアップを推奨します。また、新しいパソコンへデータベースを移動される際などもこの機能をご活用ください。

3. 問い合わせ先

お問い合わせ内容	連絡先	電話番号・メールアドレス
JSHCTホームページ「会員専用のページ」のIDとパスワード*	JSHCT学会事務局	電話番号：052-719-1824 メール：jshct@med.nagoya-u.ac.jp
「移植登録一元管理プログラム」に関するご意見・お問い合わせ	JSHCTデータセンター	電話番号：052-722-4410 メール：jshct-dc@med.nagoya-u.ac.jp

*「移植登録一元管理プログラム」ダウンロードはJSHCTのHPの「会員のページ」から

*「会員のページ」へのアクセスIDは学会会員番号、パスワードは「jshct」です。